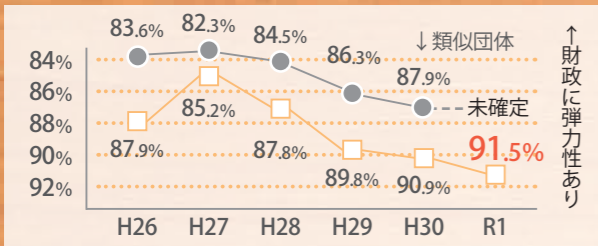
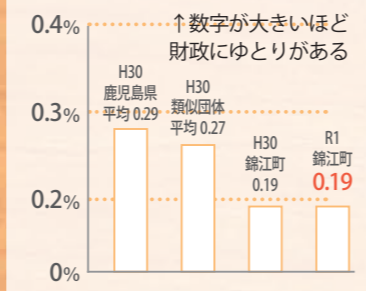


91.5 硬直度が分かる経常収支比率
 まちの硬直度 数値が低いほど財政に余裕があると言われる経常収支比率。80%以上は黄色信号で、錦江町は91.5%と硬直した状態で弾力性がないと言えます。

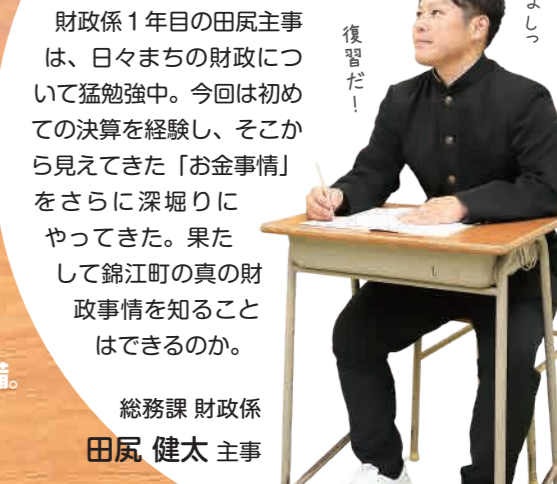


0.19 まちの体力を表す財政力指数
 まちの体力 収入額を支出額で割った過去3年間の数値で表す財政力指数。「1」に近いほど自力があると言われ、数値が低いほど国への依存度が高いと言えます。錦江町は0.19と類似団体と比べても低い水準で推移。財政面での体力はかなり低いと言えます。



Financial conditions
特集 まちの財政「通信簿」
 令和元年度

まちの未来を考えると、まず必要なことは今を知ること。福祉や介護、子育てや教育、道路や水道などインフラや公共施設の整備。私たちの生活に欠かせないものを維持するために避けては通れない、「まちのお金」について、決算から導き出された数字でお伝えします。

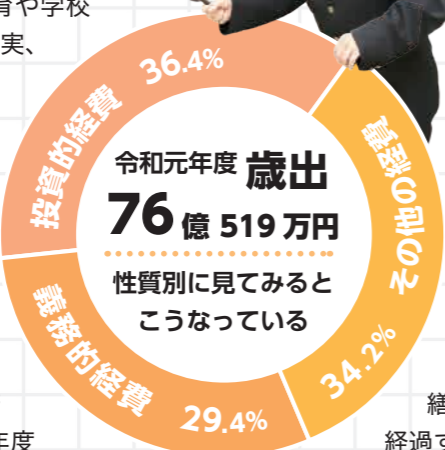


財政係1年目の田尻主事は、日々まちの財政について猛勉強中。今回は初めての決算を経験し、そこから見えてきた「お金事情」をさらに深掘りにやってきた。果たして錦江町の真の財政事情を知ることができるのか。



道路や施設整備、産業や観光振興、教育や学校施設整備、子育て支援、医療や福祉の充実、防災など、誰もが安心して住みやすい「まちづくり」を実現するための投資的な経費。経常収支比率が低いほど投資できる余裕があると言えます。

投資的経費
 道路や公共施設、住宅建設など



児童福祉や社会福祉、老人福祉などに支出する扶助費のほか、職員の人件費など、制度的に支払いが義務化されている経費。また、町債の返済など公債費も義務的経費に含まれ、昨年度は8億円を超える償還金を支出しています。

義務的経費
 支出が制度的に義務付けられている



一般会計歳出 (性質別)

人件費	9億8,167万円
物件費	9億5,291万円
維持補修費	1,405万円
扶助費	9億1,924万円
補助費等	8億3,548万円
公債費	8億8,581万円
積立金ほか	1億4,808万円
繰出金	6億1,717万円
普通建設費	22億5,078万円

委託料や消耗品などの物件費や、負担金や各種団体などへの補助金がおもな支出。公共施設の維持に必要な修繕費も含まれ、錦江町でも築30年以上経過する施設が増えるなか、今後の維持費が40年間で400億円を超える試算が出ています。

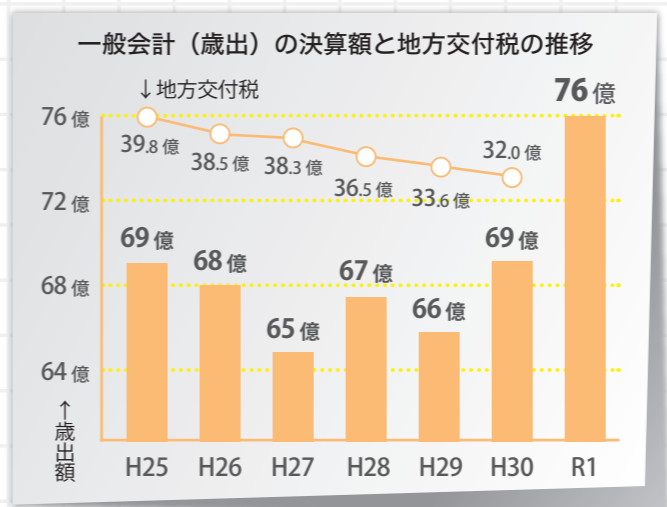
その他の経費
 委託料や補助金、修繕費など



「1」に近いほど自力があり、低いほど国への依存度が高いとされる財政力指数は、0.19と、鹿児島県や類似団体平均と比べても低水準。まちの体力を表すとも言われ、錦江町はかなり国への依存が高い状況と言えます。また、人件費などの必要な支出を、比較的安定した収入で割り出した経常収支比率は91%。80%以上は黄色信号と言われ、自由に使えるお金が少ない、いわゆる硬直化している状態が続いています。家計に例えると、収入のほとんどが、食費や光熱費、家や車のローン、学費といった必ず必要な支払いをすると残らないようなもの。しかも、その収入には親からの援助が多く、自分だけの稼ぎではとても家計が回らない不安定な状況。今後は事業の見直しや選択、業務の効率化、公共施設の統廃合など、コスト意識と危機感の共有が不可欠です。

1時間目 歳出 町が払うお金
 令和元年度 一般会計歳出額
 前年度より約6億9千万円の増
76億519万円

平成30年度に比べ約6億9千万円、10%の増額となった令和元年度の決算歳出額。畜舎や養殖用いけすの整備補助金、木質バイオマス施設整備がおもな要因となっています。



地方交付税の段階的減少により近年は66億円前後で推移。平成30年度は総合交流センター建設により69億円と増。

特別会計の歳出額計 ▶ 27億9,533万円

国民健康保険事業	12億7,530万円
後期高齢者医療事業特別会計	1億2,606万円
介護保険事業(保険事業)	12億4,339万円
介護保険事業(サービス事業)	915万円
簡易水道事業	1億1,162万円
農業集落排水事業	2,981万円

財政破綻から始まった**財政健全化法**
 まちの財政を**見える化する必要性**

自治体の会計年度は4月1日から3月31日。4月から5月は出納整理期間と呼ばれ、未収入や未払いの整理を行い、5月31日をもって会計を閉鎖します。その後、歳入歳出決算書が作成され監査委員による監査を実施。9月議会定例会において審議され承認されます。予算に比べ、あまり目にするこの決算。半年も前に締めた会計の報告に、一体どのような意味があるのでしょうか。平成19年に353億円という巨額の赤字を抱えて財政破綻した北海道夕張市の報道は、全国に衝撃を与えました。石炭という地域資源で栄えた私たちは、石油への転換によるエネルギー革命で基幹産業を失いました。企業の撤退による急激な人口減に立ち向かうため、住宅や学校、道路や水道などのインフラ整備、観光事業への積極的な投資などを進めた結果、借入金膨張。膨れ上がった負債や赤字は公表されず問題は先送りされ、結果として自力での再建が

できなくなってきた夕張市は、「町の倒産」を意味する財政再建団体としての管理下に置かれました。その年、第二の破綻を出すまいと自治体の財政を「見える化」する財政健全化法が制定。自由に使えるお金はいくらか、借入に無理はないか、財政を圧迫していないか、数値化しての公表が義務付けられました。自分たちの住む「まちの財政事情」はどうなっているのか。錦江町の財政を**見える化する**お伝えします。